



リベラルアーツ全人教育と キリスト教精神を礎として 志高き「自立した女性」を育成

SUMMARY

東京女子大学は1918（大正7）年の開学以来、リベラルアーツ全人教育を通して自立した女性の育成に取り組んできました。Service and Sacrifice（犠牲と奉仕）の精神に象徴される、キリスト教に基づく人格教育を礎に、100年以上にわたり各界で活躍する数多くの女性リーダーを輩出しています。歴史的建造物に囲まれた緑豊かなワンキャンパスには、現代教養学部文・理にわたる6学科が集結。少数教育ならではの対話を重視した学びと、リベラルアーツ全人教育を実践する理想的な教学環境を実現しています。AIの進化によって社会が大きく変化する現代だからこそ、正解のない課題に果敢に取り組む力を備えた「専門性をもつ教養人」を育成しています。



おたぐにひる
太田邦史学長

1985年東京大学理学部生物学科卒業。
2007年東京大学大学院総合文化研究
科教授。同研究科長・教養学部長、執行
役・副学長を歴任。2026年4月より現職。

03

国際社会で活躍する女性を育む 美しい景観のワンキャンパス



リベラルアーツ教育とキリスト教に基づく人格教育を実現するには、学生一人ひとりに目が行き届き、学びや交流が自然に生まれる環境が欠かせません。

その理想を体現しているのが東京女子大学のキャンパスです。正門をくぐると、緑の芝生と白亜の本館、右手に建つチャペルが織りなす美しい景観が広がります。これらはチエコ出身の著名な建築家、アントニン・レーモンドの設計によるもので、本館をはじめ全フ棟が文化庁登録有形文化財となっています。これらが有機的につながることで、学科や専門分野を越えて交流し、学び合える環境を実現しています。

本館正面の壁には、「QUAECUNQUE VINCIT VERITAS」の文字が刻まれています。これは新約聖書の一節で、「すべて真実なことを意味する言葉です。自由な学問の場としての東京女子大学の理念を象徴しています。

「アメリカの大学卒業生のうち、女子大学の卒業生はわずか2%ですが、ファイフシスターズ（米国を代表する五つの女子大学で、いずれもリベラルアーツ校）の卒業生は、連邦議会議員の20%、大企業役員33%を占めています。

本学も、建学の精神であるSSS精神（Service and Sacrifice…「犠牲と奉仕」）のもと、他者を認めて痛みを共有し、協働を通じて周囲の力を引き出すサーヴァント・リーダーシップを備えた女性リーダーを育成しています」と語る太田学長。その実現に向け、女性の自立した社会参加の基盤となる識見を養う科目や、グローバル・シティズン・プログラム（GCP）など、多彩な学びの機会を用意し、国際社会で活躍できる女性の育成に力を注いでいます。

01

AI時代に求められる 真のリベラルアーツ全人教育

優れた教育者・農学者であり、国際連盟事務次長も務めた初代学長・新渡戸稲造は、女子教育の発展に尽力した二代目学長・安井つづのもと、東京女子大学は100年以上の長きにわたり、日本女性へのリベラルアーツ教育に力を注いできました。太田邦史学長は、東京女子大学の教育を支える柱として、次の三点を挙げます。

「二つ目は、一人ひとりの学生を大切に、その成長を丁寧にサポートしていくこと。二つ目は、高い専門性を身につけた上で、隣接する分野も幅広く学ぶことのできるリベラルアーツ全人教育の展開。そして三つ目が、キリスト教の精神を基盤とした人格教育です。これらを一体的に実践することによって、深く広い教養と豊かな人格を備え、社会に貢献できる自立した女性を育成することを目指しています」

現代は生成AIに象徴されるテクノロジーが劇的に進化し、社会のあり方そのものが根本から変わろうとしています。こうした時代だからこそ、本学のリベラルアーツ全人教育と、キリスト教に基づく人格教育の価値はますます高まっています」と太田学長は語ります。

「他者に奉仕する姿勢を育み、物事を批判的に分析して本質を見抜く力や、自ら問いを立てて課題を解決していく力は、AIでは代替でき

02

分野横断的学びで 学際的視野を身につける

現代教養学部が展開するリベラルアーツ教育の特徴は、所属する学科・専攻の枠を超えて学べる横断的なカリキュラムです。6学科5専攻10コースからなる所属学科で専門性を深めながら、他学科の専門科目も10単位を必修として履修。これにより、すべての学生が履修する全学共通カリキュラムを自由に組み合わせて履修し、多角的な視点と幅広い知識を養います。

全学共通カリキュラムは、▽「知のかけはし科目」や「女性の生きる力科目」「キリスト教科目」など、現代社会の諸課題に向き合う知見を修得する「リベラル・スタディーズ」、マアカデミックスキルとして、高度な外国語運用能力を身につける「グローバル・シティズンシップ・スタディーズ」、デジタル時代に不可欠な「AI・データサイエンス・スタディーズ」の3領域で構成されます。

「リベラルアーツ教育にとっては、語学を中心とするグローバル教育に加え、AI・データサイエンス教育も『第2の教養』として欠かせません」と太田学長が語るように、全学共通カリキュラムではデータサイエンスに関する選択科目を多数用意し、基礎からエキスパートレベルまで4段階で学べる体系的なプログラムを整備。修了者には、自己PRツールにもなるデジタル証明書（一種、オープンバッジ）を授与します。また、NTTデータとも連携協定を締結し、新たな取り組みを開始しています。

04

「数理的能力」を重視し 新たな入試制度を導入

高度情報化社会が進む現代では、数学や自然科学の知識がますます重要になっています。安井つづは、「いかなる学問にも数理的能力は必要」という信念のもと教育を実践してきました。本学も時代の要請に応え、入学選抜に新たな仕組みを導入します」と太田学長は話します。

その一つが、総合型選抜「知のかけはし入試」に新設される「数学的思考力型」選抜です。情報数理科の志願者を対象に、数学の基礎力、論理的思考力、意見を表現する力などを評価する、東京女子大学としては初の年内学力試験です。さらに、一般選抜では大学入学共通テスト2教科の成績のみで合否を判定する「前期共通テスト単独2教科型」を新設するほか、情報数理科の個別学力試験型・英語外部検定試験利用型で選択科目に「生物」を追加しています。

「本学は、リベラルアーツ教育に必要なシームレスな教育組織、分野横断型の学び、そしてその価値観に共感する学生・教職員が集う環境など、必要な要素をすべて備えた稀有な大学です。自分の能力を最大限に引き出せる場所はどこかを考えてください。そして、真剣に学びに取り組みたいと思う人に、ぜひ本学を選んでほしいと思います」と、太田学長は受験生にメッセージを送っています。

